



①ブルキナファソの子どもたちとパシヤリ。②絵本の読み聞かせをする工藤さん。③カメラを向けたら集まってきたカメルーンの子どもたち。④佐井中学校での講演後にみんなで集合写真。

していたよりも教育がしっかりされていたというか、「こういうやり方もあるんだ」と、逆に私が学ばせてもらうこともありました。
私は日本の教育や考えを押し付けるやり方は絶対にしたくなかったので、まずは現地の教育や考えを受け入れるところから始めたんです。逆に受け入れ過ぎて「待って、これ私何したらいいんだろ？」ってなっちゃいましたけどね(笑)
あと現地が一番悩んだのは言葉でした。一応訓練はしていたんですけど

ど、最初はうまく話せなくて、現地の先生方もうまくコミュニケーションが取れませんでした。
それは辛いですよね。でも話をしないわけにもいいかないですし、どうされたんですか？
とにかく話すしかないのです、毎日街に繰り出していろんな人に積極的に話しかけたり、仲のいい友達がいいたので、その人と話す練習をしていました。
それでも一番大きかったのは、現地の先生方が「いいよ、ゆっくり話しながら全部話せるまで待つから」と言っ

てくれたことです。私は性格上、自分の思ったことをストレートに言えないタイプなんですが、現地の方はそういうのが好きじゃないんですね。言いたいことははっきり言いなさいという国民性があるので、私にも「思っていることがあるなら話してほしい」と言ってくれて。それを機に私は思ったことをバンバン言うようになって、そのおかげですごく仲良くなれたんですね。引っ込み思案なところからオープンな感じになったし、先生方とも子どもたちとも、赴任してきた時よりいい関係を築けるようになったのになって思います。

青年海外協力を終えて

先日佐井中学校で講演をされましたが、初めての試みだったそうですね。されてみてどうでしたか？

帰国したらいつかはやりたいと思っていたので、この講演の話をお願いしたときは「え、もうやっていいんですか？」という感じでした。とてもありがたかったです。

私も中学生のときに先輩隊員の話聞いたことが青年海外協力隊員になったきっかけだったので、もし、これから進路に悩んだとき「そういえば昔、工藤さんが何か言ってたな」と思い出し、進路志望のひとつに青年海外協力隊がランキンされていれればうれしそうですね。

青年海外協力隊って職種がたくさんあって、幅広く活動できるので、自分

の得意分野を活かせると思います。
もしかしたら将来工藤さんの話を聞いた人の中から協力隊員になる方が出てくるかもしれませんね。

もしそうならいいですね。私も行ってよかった、講演してよかったと心から思えます。そういう方が1人でも出てくれば、佐井村もちょっとだけ有名になるだろうし、佐井村を誇りに思えるだろうし。私の新しい夢です。
夢といえば、工藤さんは昔からの夢を叶えられたわけですよね？ 叶える前と後で何か心境の変化などありましたか？

夢を叶えた時はやっぱり気分も上がりますよね。ただ帰国してすぐの頃は「これから何をしよう？」ってなりました。その時はまだ中学校での講演の話もなかったですし、悩みましたね。でも今は中学校で講演させていただいて、中学校の総合的な学習の時間を見学させていただいたりもして、佐井村をもっと発展……なんていうんですかね、もっとグローバルに発展させていきたいなという野望ができました。
佐井村と世界を繋げる懸け橋になりたいと思います。

最後に佐井村のみなさんに何かひとことお願いします。

ボンジュール、みなさん！ フランス語と青森のなまりはよく似ているといわれていますが、一番親近感があったのは、〈ゴンボ〉です。みなさんが想像しているのはきつと〈ごぼう〉ですよ。〈ゴンボ〉はフランス語で〈オクラ〉という意味です。
これからもよろしくお願いします。